

令和8年度
シラバス
～学習の手引き～
〈 2 学年 〉



北海道静内農業高等学校

校 訓

自 尊 独 立

開校式辞の中で、本校生徒としてこれから学業に励むための基本姿勢として「自分のことは自分で処理する」ことを強く訴えました。当たり前のことですが、なかなかできないことです。誰かがやらなければならないことがあるとするならば、進んで自分がそれに当たろうとする心の姿勢が大切なのです。苦しくとも辛くとも、正しいこと、心の糧となることは歯を食いしばってでも、自分でやりとげる姿勢をもってほしい。本校3カ年の生活で是非そうした心の姿勢を学び取ってほしいと述べました。

校訓、「自尊独立」は、諸君たち一人一人の心の姿勢を求めているのです。諸君は、やがて社会人・職業人となるのです。諸君を信頼するに足る得難い人材とするのは、この心の姿勢であります。

〔北海道静内農業高等学校初代校長 清水小十先生の落成式挨拶より抜粋〕

校 章



この校章は昭和16年、北海道庁立静内農業学校が創立したときにつくられたものです。昭和23年学制改革により、校名変更に伴い校章も変りました。

その後、昭和53年、本校が北海道静内農業高等学校として、北海道静内高等学校からの分離独立に際し、本校の源流を表わすにふさわしい校章として再び制定されました。

- 1 農の一字をかこみ内に向い対にある稲穂は生徒一人一人の充実した成長を期待し、互いの協力により豊かな結実をもたらす農業のイメージを表しています。
- 2 星は銀色に輝き未来への希望を表しています。北の空に輝く星のように自分の目標をしっかりとち、それに向かい着実にすすむ意欲あふれる生徒を期待しています。

目 次

2 学年

【学科共通科目】

言 語 文 化	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－01
地 理 総 合	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－02
数 学 A	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－03
保 健	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－04
体 育	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－05
倫 理 ・ 表 現 I	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－06
家 庭 総 合	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－07
課 題 研 究	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－08
産 業 社 会 と 人 間	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－09
総 合 実 習 (時 間 外)	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－10
[選 択] 数 学 II	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－11
[選 択] 生 物	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－12
[選 択] フ ー ド デ ザ イ ン	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－13
[選 択] レ ク リ エ ー シ ョ ン ス ポ ー ツ	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－14
[選 択] 作 物	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－15
[選 択] 畜 産	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－16
[選 択] 果 樹	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－17
[選 択] 農 業 と 情 報	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－18

【食品科学科】

食 品 製 造	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－19
食 品 化 学	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－20
食 品 流 通	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－21
商 品 開 発 I	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－22

【生産科学科】

[選 択] 野 菜	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－23
[選 択] 草 花	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－24
[選 択] 馬 学	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－25
[選 択] 馬 利 用 学	・ ・ ・ ・ ・	Ⅱ－26

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
言語文化	2	2年食品科学科 2年生産科学科	大修館 新編 言語文化	なし

1 科目の目標

(1) 知識及び技能

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 思考力、表現力、判断力等

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 学びに向かう力・人間性等

言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	4	○文章の構成や展開に着目して、筆者の主張を捉えよう ・言葉の森を育てよう	○	○	○	【知】:常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使おうとしている。 【思】:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとしている。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
5	6	○「羅生門」を原作と読み比べて、作品の特徴について考えよう ・羅生門	○	○	○	【知】:言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解しようとしている。 【思】:作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持とうとしている。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
6	7	○古典特有の表現を理解し、古典の世界に親しもう ・児のそら寝 ・阿蘇の史、盗人にあひてのがること	○	○	○	【知】:常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使おうとしている。 【思】:自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫しようとしている。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
7 8	7	○随筆文学の面白さを発見しよう ・高名の木登り ・うつくしきもの	○	○	○	【知】:古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解しようとしている。 【思】:作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持とうとしている。 【態】:粘り強く、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持とうとしているようにしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
9	8	○我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深めよう ・あずま下り	○	○	○	【知】:時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解しようとしている。 【思】:自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしようとしている。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
10	6	○外国の文化と比較したり、日常生活を振り返ったりしながら、日本文化の特色について考えよう ・足し算の文化 ・ほどほどのデザイン	○	○	○	【知】:我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】:文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている。 【態】:粘り強く、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
11	6	○近代文学作品に込められた思想について、考えを深めよう ・夢十夜	○	○	○	【知】: 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めようとしている。 【思】: 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つようとしている。 【態】: 粘り強く、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
12	8	○自分の考えや思いが効果的に伝わるよう構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫して意見文を書いてみよう ・コルベ神父	○	○	○	【知】: 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解しようとしている。 【思】: 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しようとしている。 【態】: 粘り強く、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
1	6	○漢文を身近に感じよう ・漢文のすすめー未来を考えるヒント ・訓読のきまり、格言、再読文字	○	○	○	【知】: 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解しようとしている。 【思】: 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとしている。 【態】: 粘り強く、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
2	6	○故事成語として今日まで親しまれている言葉を集めよう ・故事成語「守株」「五十歩百歩」「借虎威」	○	○	○	【知】: 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】: 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている。 【態】: 粘り強く、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト
3	6	○様々なジャンルの漢文を読み、漢文の世界の魅力を味わおう ・完璧、鶏鳴狗盗 ・漢文世界の広がり(三国志)	○	○	○	【知】: 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 【思】: 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。 【態】: 粘り強く、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている過程の中で、自らの学習を調整している。	・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
地理総合	2	2年食品科学科 2年生産科学科	高校生の地理総合 (帝国書院)	高校生の地理総合 (帝国書院)

1 科目の目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	1	オリエンテーション					
4	5	単元A: 地図や地理情報システム 1「地図を読めるようになるような良いことがあるのだろうか?」 1: 地図にはなぜ様々な種類が存在するのだろうか? 2: 身の回りの地図はどのように作成されているのだろうか? 3: テーマごとの主題図を作り、町の強みや課題を考察しよう。	○	○	○	【知】現代世界の様々な地理情報について、様々なGISなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思】地図やGISについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート
4 5	1 8	単元B: 国際理解と国際協力 1-1「地形の違いから生じるリット・デリットには何かあるのだろうか?」 1: 地震や噴火が起きやすい地域はどのような場所か? 2: 河川の付近で人々はどうような生活をしているのだろうか? 3: 海岸の付近で人々はどうような生活をしているのだろうか? 4: 単元のまとめ	○	○	○	【知】世界の人々が、自然環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことなどを理解している。 【思】世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート
6	8	1-2「私たちは気候とどのように関わって生活しなければならないのか?」 1: 熱帯の写真を見て、いつ撮られたものか考察しよう。 2: 砂漠で生活する人はどのような工夫をしているのか? 3: なぜ温帯では多様な文化が育まれてきたのだろうか? 4: 地球温暖化と亜寒帯・寒帯の人々はどう付き合っていかなければならないか? 5: 単元のまとめ	○	○	○	【知】世界の人々が、自然環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことなどを理解している。 【思】世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート
7	4	1-3「食文化と宗教はどのように関わっているのだろうか?」 1: 世界で作られている農作物にはどのような特徴があるだろうか? 2: なぜイスラエルにはチーズバーガーが存在しないのか? 3: 単元のまとめ	○	○	○	【知】世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 【思】世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
8 ～ 9	12	1-4「世界の地域を紹介するサイトを作ってみよう！」 1:オリエンテーション 2:世界の地域を紹介サイトの作り方 3:グループワーク 4:発表及び講評	○	○	○	【知】世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 【思】世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート
10 ～ 11	14	2「SDGsの達成に向けて、私たちができることはどのようなことか？」 1:人口問題を解決するにはどのような政策が必要か？ 2:食料不足によって、どのような問題が生じているのか？ 3:より良い暮らしを実現するために解決すべき都市・居住問題とはどのようなものか？ 4:感染症の南北問題の原因はどのようなものか？ 5:他国の環境問題に日本も関わらないと行けないのはなぜか？ 6:SDGsの達成に向けて自分ができる一歩とその根拠は？	○	○	○	【知】地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。 【思】地球的課題について、生活文化の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】持続可能な開発の実現について、よりよい社会の実現を視野に世界で見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート
11 ～ 3	17	単元C:持続可能な地域作りと私たち 「自分たちが生活する地域における防災課題は何か？」 1:なぜ日本では災害が多いのか？ 2:地震と共生するにはどうすればいいのか？ 3:気象災害とその危険性は何だろう？ 4:あらゆる災害から防災はできるのだろうか？ 5:あらゆる災害に合わせてどのような防災・減災ができるのだろうか？ 6:地域の防災課題を研究しよう 7:地域の防災課題と改善案を発表	○	○	○	【知】自分たちの生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 【思】地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 【態】自分たちのまちの防災対策について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	・予習テスト、ワーク ・配布課題 ・プリント、振り返りシート

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
数学A	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	新編数学A Flex (実教出版)	ラウンドノート数学I+A (実教出版)

1 科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	20	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1 集合と要素 2 集合の要素の個数 3 場合の数 4 順列 5 組合せ				【態】順列や組合せの意味を理解し、公式を導く過程に興味を示す。 【思】順列や組合せの総数を表す記号を用いることのよさを認識できる。 【知】場合の数の求め方に見通しをもち、場面に応じた式をたてて計算ができる。	行動観察 ワークシート 小テスト 単元テスト
7	15	2節 確率 1 事象と確率 2 確率の基本性質 3 独立な試行とその確率 4 条件つき確率と乗法定理 5 期待値				【態】確率の考え方のよさを認識して、いろいろな事象の考察に活用しようとする。また、反復試行や条件付き確率の考え方について関心をもつ。 【思】いろいろな場面に応じて、場合の数や確率の求め方を考えることができる。 【知】簡単な事象の確率を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。	行動観察 ワークシート 小テスト 単元テスト
10	20	2章 図形の性質 1節 三角形の性質 1 三角形と線分の比 2 三角形の重心・内心・外心 3 メネラウスの定理とチェバの定理				【態】三角形のさまざまな性質について、いろいろな方法で調べようとする。 【思】三角形の角の二等分線と線分の比の性質について、その証明を通して考察することができる。 【知】重心、内心、外心の性質を用いて、角の大きさや線分の長さを求めることができる。	行動観察 ワークシート 小テスト 単元テスト
11		1 三角形と線分の比 2 三角形の重心・内心・外心 3 メネラウスの定理とチェバの定理					
12		2節 円の性質 1 円に内接する四角形 2 円の接線と弦のつくる角 3 方べきの定理 4 2つの円					

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
1 2 3	15	4節 空間図形 1 空間における直線と平面 2 多面体	○	○	○	<p>【態】空間図形の問題を、平面図形や空間図形の性質を用いて解決しようとする。</p> <p>【思】空間図形の問題を、平面図形や空間図形の性質を用いて考察することができる。</p> <p>【知】空間図形について、直線や平面の位置関係を答えたり、2直線や2平面のなす角を求めることができる。</p>	<p>行動観察 ワークシート 小テスト 単元テスト</p>

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
保健	1	2年 食品科学科 2年 生産科学科	現代高等保健体育	現代高等保健体育ノート

1 科目の目標

保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成すること。

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	2	＜生涯を通じる健康＞ ・生涯の各段階における健康 ア 思春期と健康	○	○	○	【知】①思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解する。 ②①の変化に対して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解する。	観察 ・ ワーク シート ・ 単元テ スト
4	4	・生涯の各段階における健康 イ 結婚生活と健康	○	○	○	【知】①結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解する。 ②受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解する。 ③健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解する。 ④家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて理解する。 ⑤結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康 診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解する。	
5	2	・生涯の各段階における健康 ウ 加齢と健康	○	○	○	【知】①中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解する。 ②高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解する。 ③高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解する。	
6	2	・労働と健康 ア 労働災害と健康	○	○	○	【知】①労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことを理解する。 ②労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解する。	
7	2	イ 働く人の健康の保持増進	○	○	○	【知】①働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解する。 ②そのためには、働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解する。	

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
8	2	<健康を支える環境づくり> ア 環境と健康 ・環境の汚染と健康	○	○	○	【知】人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解する。	観察 ・ ワーク シート ・ 単元テスト
9	4	・環境と健康に関わる対策	○	○	○	【知】①健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて理解する。 ②環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて理解する。	
10	2	・環境衛生に関わる活動	○	○	○	【知】上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて理解する。	
11	3	イ 食品と健康 ・食品の安全性	○	○	○	【知】人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて理解する。	
12	2	・食品衛生に関わる活動	○	○	○	【知】①食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて理解する。 ②食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて理解する。	
1	2	ウ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ・我が国の保健医療制度	○	○	○	【知】我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解する。	
1	2	・地域の保健・医療機関の活用	○	○	○	【知】健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解する。	
2	2	・医薬品の制度とその活用	○	○	○	【知】①医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解する。 ②疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて理解する。	
2	2	エ 様々な保健活動や社会的対策	○	○	○	【知】我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。	
3	2	オ 健康に関する環境づくりと社会参加	○	○	○	【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解する。 ②一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるということについて理解する。	
<p>※思考力・判断力・表現力等については、以下の規準で評価する。 課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。</p> <p>※科目：保健における主体的に学習に取り組む態度については、以下の規準で評価する。 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けようとしている。</p>							

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
体育	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	なし	ステップアップ高校スポーツ、現代高等保健体育、現代高等保健体育ノート (大修館書店)

1 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成すること。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全についての理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	5	・体づくり運動 ア、体ほぐしの運動 イ、実生活に生かす運動の計画 評価観点→【知】:知識・運動	○	○	○	【知】運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てている。 【思】自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 ワークシート
5 ～ 7	7	・球技 ベースボール型 ソフトボール	○	○	○	※1 球技 【知・技】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。 【思】攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 ワークシート
	7	・球技 ゴール型 バasketボール	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
8 ～ 9	7	・陸上競技 短距離走、長距離走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ	○	○	○	【知・技】記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己に適したペースで走ることができている。 【思】動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【態】主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 ワークシート

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9	5	・夏季球技大会	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
10 ～ 11	7	選択Ⅰ(球技) ネット型 テニス ネット型 卓球	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
11 ～ 12	7	選択Ⅱ(球技) ネット型 バレーボール ターゲット型 ボッチャ	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
12	5	・冬季球技大会	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
12 ～ 1	7	選択Ⅲ(球技) ネット型 バドミントン	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
		選択Ⅲ(器械運動) マット運動 跳び箱運動	○	○	○	※2 器械運動 【知・技】技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技している。 【思】生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】主体的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 ワークシート
2 ～ 3	7	選択Ⅳ(球技) ゴール型 ハンドボール	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 ワークシート
		選択Ⅳ(ダンス) 現代的なリズムのダンス	○	○	○	【知・技】感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用具、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表ができる。 【思】生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 ワークシート
通年	6	・体育理論 2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	○	○	○	【知】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 【思】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他社に伝えている。 【態】運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 ワークシート

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
論理・表現 I	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	NEW FAVORITE English Logic and Expression I Revised	なし

1 科目の目標

☆話すこと(やりとり)

- ・日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- ・日常的な話題や社会的な話題について、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。

☆話すこと(発表)

- ・日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- ・日常的な話題や社会的な話題について、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

☆書くこと

- ・日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- ・日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	1	オリエンテーション					
	2	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	○			褒める、勧める、断るときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Reading test ・Quiz ・Vocabulary quiz ・Unit quiz
5	3	Unit 1 Lesson 2 道に迷う		○		相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、物事を提案したり、依頼したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Project ・Paper
	4	Unit 1 Lesson 3 人物紹介	○			身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意を引くときの表現の形・意味・用法を理解している。	
6	4	Unit 1 Lesson 4 体調が悪い		○		現在の体調・具体的な症状などを伝えるために、繰り返し活動に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Reading test ・Quiz ・Vocabulary quiz ・Unit quiz ・Project ・Paper
	4	Unit 1 Lesson 5 買い物	○			描写する、相づちを打つときの表現の形・意味・用法を理解している。	
7	4	Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所		○		具体的かつ一貫した繋がりを持たせ希望を述べている。	
	4	Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる	○			自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Reading test ・Quiz ・Vocabulary quiz ・Unit quiz
8	4	Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談		○		助言・提案をしたり、お礼や感謝を伝えたりして、自分の考えや気持ちなどを表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・Project ・Paper
	3	前期のまとめ プロジェクト					

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法		
			知	思	態				
9	4	前期期末考査 Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介	○			映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。 相手を許す気持ちを伝えたり、相手を励ましたりして、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> •Reading test •Quiz •Vocabulary quiz •Unit quiz •Project •Paper 		
	4	Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻			○				
	10	4	Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッション	○					共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。
		4	Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿					○	
11	4	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	○			理由を述べる、例を挙げるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。 反駁したり、相手の発言を引用したりして、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。			
	4	Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート②			○				
12	3	Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ	○			経験からアドバイスをするときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。 ルールや手順を順序立てて説明したり、聞き手や読み手の知識に合わせて説明したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> •Reading test •Quiz •Vocabulary quiz •Unit quiz •Project •Paper 		
	3	Unit 2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介			○				
1	2	Unit 2 Lesson 5 日本をPR	○			事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 利点と欠点の両方を述べたり、話題を発展させたり、ディスコースマーカーを適切に用いて話題を変えたりしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現している。	<ul style="list-style-type: none"> •Reading test •Quiz •Vocabulary quiz •Unit quiz •Project •Paper 		
	2	Unit 2 Lesson 6 物語の両面を伝える			○				
2	2	学年末考査 Unit 2 Lesson 7 読み手を納得させる	○			自分の主張について理由を説明することができる。 人の発言を直接引用することができる。			
	2	Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する			○				
3	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>☆出席、取り組み状況（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表、国際交流事業）を特に重視します。英文を英語の音声の特徴をとらえて読むことや、相手の立場に立ってコミュニケーションを行うことをねらいとします。</p> </div>								

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
家庭総合	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	未来へつなぐ家庭総合365 (教育図書)	なし

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	5	A編第3章 子どもの生活と保育 ①子どもはどう生まれ育つ？	○		○	【知】:乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めることができる。 【思】:子供の健やかな発達を支えるために、適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 【態】:様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組むことができる。 生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	行動観察 ワークシート
5	6	②子どもとどうかかわろう？		○	○		
6	7	③これからの子育てとは？		○	○		
7	4	A編第4章 高齢期の生活と福祉 ①高齢期ってどういう時期？	○			【知】:高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けることができる。 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めることができる。 【思】:高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けることができる。 【態】:様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
8	4	②高齢者とふれ合ってみよう		○	○		
		③高齢化する日本を生きる	○	○	○		

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9	8	A編第5章 共生社会と福祉 ①共生って何だろう？ ②ノーマライゼーションとは	○	○		【知】:生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。 家庭と地域との関わりについて理解しているとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めることができる。 【思】:家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、様々な人々との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けることができる。 【態】:様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組むことができる。	行動観察 ワークシート 単元テスト
10	8	B編第1章 食生活と健康 ①なぜごはんを食べるの？ ②私たちは何を食べているの？	○	○	○	【知】:食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人の関わりについて理解を深めることができる。 ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、食生活の計画・管理に必要な技能を身につけることができる。	行動観察 ワークシート 単元テスト
11	8	③安全に食べよう	○	○		おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	
12	6	④健康に食べよう ⑤おいしく食べよう ⑥これからも食事を楽しむために	○	○	○	【思】:主体的に食生活を営むことができるよう目的や個性に応じた課題を設定し、解決する力を身につけている。 【態】:様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組むことができる。 生活文化を継承し、自己や家庭、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
1	5	学校家庭クラブ活動		○	○	【知】:ホームプロジェクトの意義と実践方法について理解することができる。 【思】:自己の家庭生活や地域生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決する力を身につけることができる。 【態】:様々な人々と協働し、学校家庭クラブについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 発表制作物
2	5	C編第1章 生活における経済の計画 ①将来に向けて家計を考えよう ②将来の経済計画を立ててみよう	○	○	○	【知】:家計の構造について理解しているとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。 【思】:生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて課題を設定し、解決する力を身につけることができる。 【態】:様々な人々と協働し、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
3	4	生涯の生活設計2 ①自分の人生を豊かにしよう	○	○	○	【知】:人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解できる。 【思】:自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察できる。 【態】:生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
課題研究	3	2年 食品科学科 2年 生産科学科	なし	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につけるようにする。

(2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
通年	105	<p>○プロジェクト活動(4月～3月)</p> <p>Plan 計画 日高の農業や産業など地域の現状を把握して問題を抽出し、学習目的と達成目標を明確にして、研究班として取り組む課題から個々が取り組む課題を設定する。 仮説を設定し、課題解決方法の手順を考えて目標達成のための計画を立てる。</p> <p>Do 実行 計画に従って学校内外で実験・実習、調査、観察、記録などを継続的に行うとともに、実践記録や実験等で得られたデータ処理と分析・考察を行う。</p> <p>Check 評価 取り組みの内容や結果をまとめ、評価する。</p> <p>Action 改善 分析・考察の結果を基に、次年度に向けてどこをどのように改善すればいいか検証する。</p> <p>☆食品科学科研究班☆ 肉加工研究班、農産加工研究班、乳加工研究班</p> <p>☆生産科学科研究班☆ 軽種馬研究班、馬利用研究班、園芸研究班</p> <p>○農業クラブ活動 プロジェクト計画発表会 個人プロジェクト発表会 校内実績発表会</p>	○	○	○	<p>【態】:所属する研究班で設定した農業に関する課題について興味・関心をもち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思】:所属する研究班で設定した農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【知】:所属する研究班で設定した農業に関する課題の基礎的な技術を身に付け、自ら設定した農業に関する課題のプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用しているとともに、農業に関する課題の基礎的な知識を身に付けている。</p>	<p>【態】 授業態度 リフレクションシート 等</p> <p>【思】 活動記録簿 プロジェクト 報告書 等</p> <p>【知】 ワークシート まとめ資料等</p>

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
産業社会と人間	1	2年 食品科学科 2年 生産科学科	なし	なし

1 科目の目標

人間の生き方としての探求を通して、職業を選択し、決定する場合に、必要な能力と態度を養うとともに、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーションの能力を培うことや現実の産業社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成することをねらいとしている。

- (1) 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観を身につけている(職業と生活)
- (2) 我が国の産業の発展とそれがもたらしている社会の変化について考えている(我が国の産業と社会の変化)
- (3) 自己の将来の生き方や進路について考え、その実現に向けた履修計画を作成する(進路と自己実現)

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識及び技能 【思】:思考力,判断力,表現力等 【態】:学びに向かう力,人間性等

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
			知	思	態			
4	1	オリエンテーション				【知識・技能】 ①職業の種類,特徴や役割,職業生活について求められる能力や態度を理解している。 ②課題の発見と解決に必要なコミュニケーション,情報活用,表現の方法を理解し技能を身に付けている。 ③望ましい勤労観,職業観を身につけ自らが社会で果たしていく役割について理解している。	行動観察・ワークシート	
	4	基礎力診断テスト①						
5	1	『働くこと,社会で求められる力』	①			【思考力・判断力・表現力】 ①資料や情報を活用し,仮説を立てた上で物事を検証している。 ②目的に応じて情報収集の手段を選択し,課題解決を目指して客観的な根拠を基に分析している。 ③学習した内容を振り返り,まとめ,他者に伝わりやすいよう論理的に説明,表現している。		
	1	ビジネスマナー	②		②			
6	1	基礎力診断テスト分析会	②	①		【学びに向かう人間性】 ①自己を見つめ,自分の個性や特徴に向き合った上で,将来的な自己の在り方生き方を考え,進路実現に取り組もうとしている。 ②多様な意見を受け入れ尊重し,協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ③社会参画・貢献の視点で,自己の在り方生き方を考えようとしている。		
	3	職業体験活動	①		③			
7	7	キャリアステップ 視察研修,進路相談会 ※変更の可能性有	③	② ③	①	行動観察・ワークシート		
	10	基礎力診断テスト②						
11	3	高校生と働く大人の グループディスカッション	①		②			【学びに向かう人間性】 ①自己を見つめ,自分の個性や特徴に向き合った上で,将来的な自己の在り方生き方を考え,進路実現に取り組もうとしている。 ②多様な意見を受け入れ尊重し,協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ③社会参画・貢献の視点で,自己の在り方生き方を考えようとしている。
	2	地元産業・企業魅力発見フェア	①		③			
12	1	基礎力診断テスト分析会	②	①				【学びに向かう人間性】 ①自己を見つめ,自分の個性や特徴に向き合った上で,将来的な自己の在り方生き方を考え,進路実現に取り組もうとしている。 ②多様な意見を受け入れ尊重し,協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ③社会参画・貢献の視点で,自己の在り方生き方を考えようとしている。
	1	コース選択説明会						
1	3	後輩へのメッセージ	②	③	②		【学びに向かう人間性】 ①自己を見つめ,自分の個性や特徴に向き合った上で,将来的な自己の在り方生き方を考え,進路実現に取り組もうとしている。 ②多様な意見を受け入れ尊重し,協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ③社会参画・貢献の視点で,自己の在り方生き方を考えようとしている。	
3	3	校内合同企業説明会	① ③		③			

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
総合実習(時間外)	1	2年 食品科学科 2年 生産科学科	なし	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
通年	35	時間外実習 (研究班実習) 課題の解決に向けた研究班実習において、思考を深め、合理的に判断し、適切に表現する。 課題の解決に向けた研究班実習において、実践的な技能を身に付け、適切に活用する。 課題の解決に向けた研究班実習で実践的な知識を身に付け、学習課題について適切に理解する。	○	○	○	【態】:自ら設定した課題について、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。 【思】:自ら設定した課題の解決を目指して思考を深め、調査・研究・実験の取り組みを適切に判断するとともに、科学的に捉えて表現する能力を身に付けている。 【知】:自ら設定した課題の基礎的な技術を身に付け、プロジェクト学習に必要な技術を適切に活用し、結果を正確に理解することができる。	【知】 (1) 実習レポート (2) 制作物 【思】 (1) 実習レポート (2) 授業プリント 【態】 (1) 授業態度

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
数学Ⅱ	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	新編数学Ⅱ (実教出版)	ラウンドノート数学Ⅱ (実教出版)

1 科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	9	1章 方程式・式と証明 1節 式の計算 1 整式の乗法 2 二項定理 3 整式の除法 4 分数式	○	○	○	【知】:三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 【知】:多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算ができる。 【思】:式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察できる。 【態】:事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
5							
6	16	2節 複素数と方程式 1 複素数 2 二次方程式 3 因数定理 4 高次方程式	○	○	○	【知】:数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。 【知】:二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できる。 【知】:因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【態】:問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
7							
8	9	3節 式と証明 1 等式の証明 2 不等式の証明		○		【思】:実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。	行動観察 ワークシート 単元テスト

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9	18	2章 図形と方程式 1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係				【知】:座標を用いて,平面上の線分を内分する点,外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 【知】:座標平面上の直線を方程式で表すことができる。 【思】:座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し,それを方程式を用いて表現することができる。 【態】:事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し,問題解決にそれらを活用しようとして,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
10			○	○	○		
11							
9	9	2節 円 1 円の方程式 2 円と直線				【知】:座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。	行動観察 ワークシート 単元テスト
12			○				
1	9	3節 軌跡と領域 1 軌跡と方程式 2 不等式の表す領域 3 連立不等式の表す領域				【知】:軌跡について理解し,簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【知】:簡単な場合について,不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【態】:数量と図形との関係などに着目し,日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え,コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして,問題解決に活用したり,解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
2			○		○		
3							

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
生物	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	生物 (実教出版)	アクセスノート生物

1 科目の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

②観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 5	25	1章 生物の進化 1節 生命の起源と細胞の進化	○			・実際に確認できない長大なスケールの時間に対しても、対比をすることで概要を把握できる。	授業プリント 形成テスト
			○			・生命の誕生に関する仮説について理解できる。	
		2節 遺伝子の変化と進化のしくみ		○		・DNAの塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にどのような変化をもたらすかを見い出して理解できる。	授業プリント 形成テスト
			○	○		・遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。	
			○		○	・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。	
			○			・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握できる。	
3節 生物の系統と進化	○		○	・生物分類の必要性を理解し、その歴史的な大分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。	授業プリント 形成テスト		
	○			・現在の生物分類と系統を理解できる。			
	○			・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解できる。			
			○	・霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。			
6 ～ 8	25	2章 生物現象と物質 1節 細胞と分子			○	・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。	授業プリント 形成テスト
			○			・生体膜の構造に関する学習を手がかりとし、細胞あるいは細胞小器官が生体膜によって独自の密閉空間をつくり、細胞内外の物質輸送を行っていることを理解できる。	
			○			・細胞の形の維持には、細胞壁などの炭水化物や、微小管やフィラメントなどのタンパク質が関与していることを理解できる。	
		2節 生命現象とタンパク質	○			・タンパク質の基本的な構造・性質について理解できる。	授業プリント 形成テスト
					○	・酵素に関する実験を行い、生命現象に酵素の働きが関わっていることに気付くことができる。実験から、酵素には最適温度や最適pHがあることを考察することができる。	

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
			知	思	態			
9				○		・生物体にみられるさまざまな働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。		
			○			・タンパク質の構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用、物質の輸送や情報伝達などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解できる。		
9 ～ 11		3節 代謝			○	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。	授業プリント 形成テスト	
			○			・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解できる。		
			○			・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解できる。		
20		第3 遺伝情報の発現と派生 1節 遺伝情報とその発現	○			・メセルソンとスタールの実験結果とともに、半保存的複製のしくみを理解できる。	授業プリント 形成テスト	
			○			・DNAが遺伝子として働くしくみやRNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解できる。		
					○	○		・X-galを用いた大腸菌の培養実験をもとに、遺伝子発現がどのように調節されているのかを見いだそうとし、自分なりの考えを出すことができる。
					○			・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用いて、一連の流れを説明することができる。
		2節 発生と遺伝子発現	○				動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解できる。	授業プリント 形成テスト
			○				・動物の発生とそのしくみについては、ヒトの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができる過程を理解できる。	
			○	○			・ショウジョウバエの頭尾軸決定に関する実験結果をもとに、動物の発生において、軸の形成には卵に蓄積された母性因子が関与していることを理解できる。	
			○				誘導のしくみを理解し、動物の器官が連鎖的に形成されていくことを理解できる。	
		3節 遺伝子を扱う技術				○	バイオテクノロジーについて関心をもち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。	授業プリント 形成テスト
			○	○			・電気泳動の原理を理解し、実験によって、設定したDNA断片の長さに応じた適切な泳動結果を得ることができる。	
○					バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解できる。			
			○	○	・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。			
12 ～ 3								

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
フードデザイン	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	フードデザイン (実教出版)	

1 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	4	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	○		○	【知】:食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることを理解することができる。 現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 【思】:心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について思考を深め、自分の食生活の現状を判断することができる。 【態】:自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする姿勢がみられる。	ワークシート レポート
5	6	第2章 栄養素の働きと食事計画					
6	8	1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と食事計画	○	○	○	【知】:人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを理解することができる。 各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解することができる。 エネルギー摂取量と必要なエネルギー量の算出方法を理解することができる。 【思】:からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのか考えることができる。 各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。 【態】:食生活の現状とも関わらせながら、「日本人の食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」などを活用し、ライフステージに応じた食事計画に活かすことができる。	ワークシート レポート
7	4	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動	○	○	○	【知】:食育基本法の理念を知り、食育に関するさまざまな活動が行われていることを理解できる。 【思】:食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。 【態】:食育活動に取り組むことができる。	ワークシート レポート

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
8	4	第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ	○			【知】:主な加熱操作と非加熱操作について、調理性や栄養的特徴などかかわらせて理解することができる。 日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 【思】:食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度など関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりを与える影響について考えることができる。 調味、加熱やその他の調理操作が、料理のできあがり大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができる。 【態】:調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、主体的に取り組もうとしている	実技 ワークシート
9	8	2節 調理操作 3節 調味操作		○			
10	8	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	○	○	○		
11	8	第3章 食品の特徴・表示安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通	○	○	○	【知】:食品の特徴、調理上の性質および調理による成分の変化について理解することができる。 食品の衛生と安全に関する基本的なことを理解することができる。 【思】:輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択をすることができる。 【態】:食品の生産・流通・加工などの現状に課題意識を持ち、課題解決に向けて主体的に活動している	ワークシート
12	6	3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全		○	○		
1	4	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成	○	○	○	【知】食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践することができる。 【思】:具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 作成した献立に適した食品を選択することができる。 食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境を判断することができる。 【態】:食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする姿勢がみられる。	実技 ワークシート
2	6						
3	4						

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
レクリエーションスポーツ	2	2年 食品科学科 2年 生産科学科	なし	現代高等保健体育、現代高等保健体育ノート(大修館書店)

1 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成すること。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全についての理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	1	オリエンテーション				※1 球技	観察 レポート ワークシート
5	12	様々な種目に挑戦しよう ソフトバレーボール ポートボール キックベース ティーボール	○	○	○	【知・技】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。 【思】攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。	
6	12	様々な種目に挑戦しよう アルティメット グラウンドゴルフ フラッグフットボール ドッジボール	○	○	○	※1 球技 の通り	観察 レポート ワークシート
7							
8	12	様々な種目に挑戦しよう ポッチャ モルック ファウストボール キンボール	○	○	○	※1 球技の通り	観察 レポート ワークシート

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9							
10	12	レクリエーションスポーツを 考案しよう これまでの学習を踏まえて、 新たなレクリエーションスポーツ を考案する。	○	○	○	※1 球技の通り	観察 レポート ワークシート
11							
12	12	考案したレクリエーション スポーツを体験してもらおう 校内の生徒や教員に考案 したスポーツを体験してもらおう。	○	○	○	※1 球技の通り	観察 レポート ワークシート
1		発表会の開催					
2	9	ウィンタースポーツ ・雪合戦 ・スケート ・そり ・かまくら作り	○	○	○	【知】運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てている。 【思】自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【態】自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いなどを大切にしようとするなど、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	観察 レポート ワークシート
3							

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
食品製造	2	2年・食品科学科	食品製造 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

(2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 食品製造について、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 5	2	1章 食品製造の意義 食品製造とその目的				【関】:食品製造について興味・関心を持ち、食品製造者としての態度を身に付けようとしている。 【思】:食品衛生とその危害要因について思考を深め、安全・安心な食品製造を実践できる。	
		4章 食品加工と食品衛生 1 食品と食品衛生 2 食品による危害と安全確保		○	○		
通 年	20	7章 畜産物の加工 牛乳の加工				【態】:牛乳の成分の特徴と加工特性に興味関心をもち、身近な乳製品がどのように製造されるのかを意欲的に学ぼうとする態度を身に付けている。 【思】:牛乳の成分の特徴と加工特性を理解し、身近な乳製品がどのような特性を活かして製造されているのかを科学的に捉え、適切に判断できる。 【知】:牛乳の成分の特徴と加工特性を理解し、加工原理・乳製品の製造に必要な基礎的な知識や技術が身に付いている。	【知】 授業態度 パフォーマンス テスト 【思】授業プリント 実習記録簿 テスト
		1 牛乳の成分と加工特性					
		2 クリーム製造	○	○	○		
		3 乳飲料の製造					
		4 発酵乳の製造					
		5 アイスクリームの製造 6 チーズの製造					
通 年	20	第6章 農産物の加工				【態】:農産加工に興味を持ち、品質を向上させるための製造について考えることができる。 【思】:農産物の特性を理解し、農産物にあった加工方法を考えることができる。	【態】 ワークシート 自己評価 相互評価
		1 穀類の加工 ・パン ・菓子類	○	○	○		
		2 いも類の加工 ・いもの加工					
		3 野菜類の加工 ・トマトの加工 ・本校農場野菜の加工				【知】:農産加工の基礎的な知識、衛生の知識を身につけ、加工原理を理解することができる。	

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
通 年	20	7章 畜産物の加工 肉類の加工 1 肉の成分と加工特性 2 豚肉の加工 (1)ソーセージの製造 (2)ベーコンの製造	○	○	○	<p>【態】:肉類の成分の特徴と加工特性に興味関心をもち、身近な肉製品がどのように製造されるのかを意欲的に学ぼうとしている。</p> <p>【思】:肉類の成分の特徴と加工特性を理解し、身近な肉製品がどのような特性を活かして製造されているのかを科学的に捉え、適切に判断できる。</p> <p>【技】:肉類の成分の特徴と加工特性を理解し、加工原理・乳製品の製造に必要な基礎的な知識や技術が身に付いている。</p>	
通 年	4	8章 発酵食品の製造 ・発酵食品の特徴と種類 ・みその製造	○	○	○	<p>【関】:発酵食品に興味を持ち、品質を向上させるための製造について考えることができる。</p> <p>【思】:発酵の特性を理解し、みその加工について、適切な方法を考えることができる。</p> <p>【知】:発酵食品の基礎的な知識、衛生の知識を身につけ、加工原理を理解することができる。とともに、みその製造について理解し、安全に加工を実施することができる。</p>	<p>【知】 授業態度 パフォーマンス テスト</p> <p>【思】授業プリント 実習記録簿 テスト</p> <p>【態】 ワークシート 自己評価 相互評価</p>
4 ・ 12 ～ 3	4	9章 食品製造の実践と企業化 1 品質管理 2 作業体系 (HACCPの実践)	○	○	○	<p>【態】:食品の安全を守るための品質管理・作業体系にはどのような方法があるのか興味・関心を持ち、食品製造と品質管理・作業体系の関わりについて探求しようとしている。</p> <p>【思】:食品の安全を守るための品質管理・作業体系の仕組みについて思考を深め、基礎的な知識を基に合理的に判断し、適切に表現している。</p> <p>【知】:品質管理・作業体系に関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているとともに、基礎的な知識を身に付けている。</p>	

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
食品化学	2	2年 食品科学科	食品化学 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の成分と栄養価値の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品化学について食品の成分や栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	6	オリエンテーション 食品科学の領域 (1) 食品の特性 (2) 食品成分の変化 (3) 食品成分の分析 (4) 食品の検査	○	○	○	【知】食品化学の役割に関する基礎的な知識を身に付け、身近な食品例から、食品製造と食品化学の関係について理解している。 【思】身近な食品例から、食品製造と食品化学の関係性について思考を深め、基礎的な知識を基に合理的に判断し、食品化学が食生活の改善に果たしている役割を適切に表現している。 【態】食品製造と食品化学に関する諸問題を解くための方法について考え、解決へ導くための方法を考え行動しようとしている。	【知】 ・小テスト ・単元テスト
5	7	食品化学と食品製造 (1) 食生活と食品化学の関わりについて (2) 食品製造とバイオテクノロジー (3) 食品検査とバイオテクノロジー	○	○	○		
6	7	食品成分の分類と機能 (1) 食品成分の分類とその特徴について (2) 食品の機能	○	○	○		
7	6	水分 (1) 水の性質 (2) 水分子を結合させる水素結合 (3) 水分について (4) 溶媒としての水	○	○	○	【知】水分に関する基礎的な知識を身に付け、身近な食品中に含まれている成分の性質や機能について理解している。 【思】身近な食品と原材料に含まれている水分について思考を深め、基礎的な知識を基に合理的に判断し、適切に表現している。 【態】身近な食品と原材料に含まれている水分に関する課題を考え行動しようとしている。	【態】 ・授業プリント ・振り返りシート
8	5	(5) 食品の保存と水 (6) 自由水と結合水 (7) 水と凍結 (8) 水分活性	○	○	○		

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9	6	タンパク質 (1) 食品中に含まれるタンパク質 (2) タンパク質を構成する物質 (3) タンパク質の変性	○	○	○	【知】タンパク質に関する基礎的な知識を身に付け、身近な食品中に含まれている成分の性質や機能について理解している。 【思】身近な食品と原材料に含まれているタンパク質について思考を深め、基礎的な知識を基に合理的に判断し、適切に表現している。 【態】身近な食品と原材料に含まれているタンパク質に関する課題を発見し解決へ導く方法を考え行動しようとしている。	
10	6	(4) 酵素 (5) アミノ酸の種類と性質 (6) ペプチドの種類・性質 (7) タンパク質の種類と性質	○	○	○		
11	6	農業技術検定学習分野「食品」総復習	○		○	【知】農業技術検定に関する基礎的な知識を身に付け、資格取得に必要な知識を理解している。 【態】農業技術検定について興味・関心を持ち、検定取得に向け学習しようとしている。	【知】 ・小テスト ・単元テスト
12	6	脂質 (1) 脂質の分類 (2) 食用油脂 (3) 油脂の分類	○	○	○		【思】 ・単元テスト ・授業プリント
1	5	(4) 食用油脂の利用 (5) 油脂の構造 (6) 脂肪酸の構造	○	○	○	【知】脂質に関する基礎的な知識を身に付け、身近な食品中に含まれている成分の性質や機能について理解している。 【思】身近な食品と原材料に含まれているタンパク質について思考を深め、基礎的な知識を基に合理的に判断し、適切に表現している。	【態】 ・授業プリント ・振り返りシート
2	6	(7) 油脂の特徴 (8) 融点 (9) 酸化	○	○	○	【態】身近な食材と食品と原材料に含まれている脂質に関する課題を発見し解決へ導く方法を考え行動しようとしている。	
3	4	(10) 乳化 (11) 油脂の改質	○	○	○		

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
食品流通	2	2年 食品科学科	食品流通 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の流通とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	6	第1章 現代社会と食品流通 1 流通の始まりと発展 2 流通の働き 3 食品流通の役割	○	○	○	【知】:流通のしくみを理解し、流通の市場規模や用語について答えることができる。 【思】:食品流通のしくみにを理解し、製品の流通に必要な方法を考えることができる。 【態】:食品流通に興味を持ち、現代の流通の課題について解決しようとしている。	ワークシート 単元テスト
5 ~ 7	18	第2章 経済活動と食料 1 経済発展と食料消費 2 世界の食糧事情 3 日本の食生活、食料受給と自給率 4 私たちをとりまくフードシステム	○	○	○	【知】:世界に視野を広げ、世界と日本の食料事情について自分の考えをまとめることができる。 【思】:世界の食品流通について理解し、日本の課題について表現することができる。 【態】:世界と日本の流通課題について解決しようとしている。	ワークシート 提出物 単元テスト
8 ~ 10	20	第3章 食品流通の仕組みとはたらき 1 食品流通の特長 2 食品流通の仕組み 3 価格形成と流通経費	○	○	○	【知】:食品流通の特長について理解しようとしている。 【思】:食品流通の課題を理解し、解決するための方法を考え表現することができる。 【態】:流通の特長を理解し、課題を見つけ解決しようとしている。	ワークシート 提出物 単元テスト
11 ~ 3	26	第4章 おもな食品の流通 1 米の流通 2 麦の流通 3 青果物の流通 4 畜産物の流通 5 加工食品の流通	○	○	○	【知】:流通の特長や制度について理解しようとしている。 【思】:流通課題を見つけ、解決するための方法を考え表現することができる。 【態】:各食品の課題について情報を収集し解決しようとしている。	ワークシート 単元テスト

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
食品流通	2	2年 食品科学科	食品流通 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の流通とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	6	第1章 現代社会と食品流通 1 流通の始まりと発展 2 流通の働き 3 食品流通の役割	○	○	○	【知】: 流通のしくみを理解し、流通の市場規模や用語について答えることができる。 【思】: 食品流通のしくみにを理解し、製品の流通に必要な方法を考えることができる。 【態】: 食品流通に興味を持ち、現代の流通の課題について解決しようとしている。	ワークシート 単元テスト
5 ~ 7	18	第2章 経済活動と食料 1 経済発展と食料消費 2 世界の食糧事情 3 日本の食生活、食料受給と自給率 4 私たちをとりまくフードシステム	○	○	○	【知】: 世界に視野を広げ、世界と日本の食料事情について自分の考えをまとめることができる。 【思】: 世界の食品流通について理解し、日本の課題について表現することができる。 【態】: 世界と日本の流通課題について解決しようとしている。	ワークシート 提出物 単元テスト
8 ~ 10	20	第3章 食品流通の仕組みとはたらき 1 食品流通の特長 2 食品流通の仕組み 3 価格形成と流通経費	○	○	○	【知】: 食品流通の特長について理解しようとしている。 【思】: 食品流通の課題を理解し、解決するための方法を考え表現することができる。 【態】: 流通の特長を理解し、課題を見つけ解決しようとしている。	ワークシート 提出物 単元テスト
11 ~ 3	26	第4章 おもな食品の流通 1 米の流通 2 麦の流通 3 青果物の流通 4 畜産物の流通 5 加工食品の流通	○	○	○	【知】: 流通の特長や制度について理解しようとしている。 【思】: 流通課題を見つけ、解決するための方法を考え表現することができる。 【態】: 各食品の課題について情報を収集し解決しようとしている。	ワークシート 単元テスト

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
商品開発 I	2	2年・食品科学科	なし	なし

1 科目の目標

商品開発に関する課題を発見し、商品の企画から開発、販売、分析までの基本的な活動を行う能力と態度を身に付けるとともに、地域資源を踏まえた新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的且つ協働的に取り組む態度を身に付けることを目標とする。

- ①商品開発に必要な知識と技術に関して興味・関心を持ち、商品開発の意義と方法を科学的に捉え、創造的な商品を開発しようとする態度を身に付けるようにする。
- ②商品開発に必要な知識と技術に関して思考を深め、食品の特性に応じた商品開発方法を適切に判断する能力を身に付けるようにする。
- ③商品開発に必要な基礎・基本的な知識や技術を身に付け、適切に活用する能力を身に付けるようにする。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	6	・オリエンテーション ・商品開発の意義 ・流通チャネルの種類と特徴	○		○	【態】:商品開発に興味・関心を持ち、商品開発の意義を理解しようとしている。 【知】:商品開発の意義や流通チャネルの種類と特徴について理解している。	
5	6	・市場調査と方法 ・消費者のニーズ、消費実態、生活行動 ・開発商品テーマ設定及び商品決定	○	○	○	【態】:消費者の消費実態や生活行動についての知識を活かし学びを発展させることができる。 【思】:開発商品のテーマ設定について、身に付けた知識を適切に活用している。 【知】:市場調査の方法や消費者のニーズ等、マーケティングに必要な基礎・基本的な知識を理解しその知識を応用することができる。	【知】 (1) 定期考査 (2) 小テスト (3) 制作物 (4) 授業プリント
6	6	・商品コンセプトとターゲティング設定 ・商品企画書の基礎 ・商品企画書の作成① ・類似商品の製造工程 ・原材料分析	○	○		【思】:商品コンセプトとターゲティングについて身に付けた知識を適切に活用し、設定している。 【知】:商品企画書を商品コンセプトやターゲティングを踏まえ、作成することができる。	【思】 (1) ノート確認 (2) 授業プリント (3) 定期考査
7	6	・開発商品の製造工程、原材料決定 ・原価、利益率計算基礎	○			【知】:原価や利益率の求め方について、理解しているとともに、開発商品の製造工程や原材料について、身に付けた知識を適切に活用し設定することができる。	【態】 (1) 授業態度 (2) 授業プリント (3) 自由記述 (4) 行動観察
8	6	・開発商品の原価、利益率計算、価格設定 ・開発商品のまとめ資料作成	○	○		【知】:原価や利益率について、身に付けた知識を適切に活用し、応用することができる。 【思】:開発商品のまとめを、身に付けた情報技術を活用して、適切にまとめることができる。	

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
9	6	・開発商品のプレゼンテーション ・開発商品の最終調整 ・商品の試作		○	○	【態】:開発商品に興味・関心を持ち、プレゼンテーションを行うことができる。 【思】:商品の試作について、商品企画書を適切に活用することができる。	
10	6	・商品の試作 ・試作品アンケート調査 ・商品の改善 ・試作品の評価	○	○		【思】:商品の改善について、試作品のアンケート結果を踏まえ、取り組むことができる。 【知】:商品の試作について、商品企画書を適切に活用し、試作を行うことができる。	
11	6	・商品の改善 ・商品パッケージの作成	○		○	【態】:商品の改善について、客観的な視点を持ち、取り組むことができる。 【知】:商品パッケージの作成方法について基本的な知識を理解している。	【知】 (1) 定期考査 (2) 小テスト (3) 制作物 (4) 授業プリント
12	6	・商品パッケージの作成 ・栄養表示基礎・栄養表示作成 ・試作品の評価 ・商品お披露目会	○	○	○	【態】:商品お披露目会に向けて、プレゼンテーションに興味・関心を持ち、協働で作成に取り組むことができる。 【思】:栄養表示について、身に付けた知識を活用し、適切に作成することができる。 【知】:商品お披露目会でプレゼンテーションを適切に行うことができる。	【思】 (1) ノート確認 (2) 授業プリント (3) 定期考査 【態】 (1) 授業態度 (2) 授業プリント (3) 自由記述 (4) 行動観察
1 ～ 2	10	・商品製造と試験販売 ・アンケート調査	○			【知】:アンケート調査について、試験販売のデータをまとめることができる。	
3	6	・1年間のまとめ ・次年度へ向けて	○			【知】:1年間の学びを理解し、まとめを作成することができる。	

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
野菜	4	2年 生産科学科 園芸コース	野菜 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 5	9	野菜の栽培と管理・評価 果実を利用する野菜の育苗 ・育苗の目的と方法 ・育苗技術の実際と応用	○	○	○	【知】: 野菜苗の育苗方法に関する基礎的な知識を身に付け、各育苗方法の特徴について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】: 育苗技術の実際と応用について課題を発見し、プロジェクト学習により、科学的根拠に基づき創造的に解決している。 【態】: 育苗の意義と良苗の条件について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 単元テスト 実習の取組
5 ～ 2	18	野菜の特性と栽培技術 果実を利用する野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 ・野菜の生育と生理 ・野菜の栽培環境と生育の調節	○	○	○	【知】: 生育特性と栽培環境の調節に関する基礎的な知識を身に付け、各生育や生理の特徴について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】: 栽培環境と生育調節の実際と応用について課題を発見し、プロジェクト学習により、科学的根拠に基づき創造的に解決している。 【態】: 生育特性や栽培環境について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 単元テスト 実習の取組

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 1	60	栽培環境と生育の調節 果実を利用する野菜の栽培 GAPに関する学習	○	○	○	【知】: 野菜の栽培方法,各栽培方法の特徴について理解しているとともに,関連する技術を身に付けている。 【思】: 栽培技術の実際と応用について課題を発見し,プロジェクト学習により,科学的根拠に基づき創造的に解決している。 【態】: 野菜栽培条件について自ら学び,プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について,主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	ワークシート 単元テスト 実習の取組
1 ～ 3	18	持続可能な栽培 野菜の安全性 ・環境に優しい野菜栽培 ・安全、安心な野菜栽培	○	○	○	【知】: 持続可能な栽培に関する基礎的な知識を身に付け,流通の特徴について理解している。 【思】: 持続可能な栽培に関する地域的な課題を発見し,プロジェクト学習により,科学的根拠に基づき創造的に解決している。 【態】: 持続可能な栽培に関する方策について自ら学び,プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について,主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	ワークシート 単元テスト 実習の取組

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
草花	4	2年・生産科学科・園芸コース	草花 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 7	30	オリエンテーション 第1章 草花生産と消費の動向 1 草花園芸の特徴 草花の生産と経営 草花の種類 草花の生産形態 2 草花生産と消費の動向 草花生産の動向 消費の動向 流通のしくみ 流通の国際化	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	【知】: 草花生産の役割と動向について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】: 草花生産の役割と動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】: 草花生産の役割と動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
8 ～ 10	15	第2章 生活と草花の利用 1 草花の多面的利用 草花利用の意義 草花の利用 ヒューマンサービスと草花 2 園芸デザイン 園芸デザインと草花の装飾的特性 園芸デザインの基本 園芸デザインの基本実際	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	【知】: 草花生産の役割と動向について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】: 草花生産の役割と動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】: 草花生産の役割と動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 12	30	第6章 花壇用草花生産 1 花壇用草花生産の特色 花壇用草花の特性 花壇用草花生産の動向と今後の課題	○	○	○	【知】:草花の栽培と管理・評価について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:草花の栽培と管理・評価に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:草花の栽培と管理・評価について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
		2 花壇用草花の栽培 花壇用草花の種類と特性 花壇用草花の栽培管理 花壇用草花の定植後の管理 花壇用草花の栽培管理	○ ○	○ ○	○ ○		
4 ～ 1	45	プロジェクト学習 テーマ「ポインセチアの比較調査」 観察・生育調査 プロジェクトの記録 プロジェクトのまとめ プロジェクトの発表	○ ○	○ ○	○ ○	【知】:草花生産と経営に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:草花生産と経営に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】草花生産と経営について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 単元テスト
		第3章 草花の特徴と栽培技術 1 草花の生育と環境 草花の一生 根の成長と養水分の吸収 シュートの成長と光合成 花芽(花序)文化と発達 生育開花調節 2 草花の生育と栽培技術 草花の生育と土・水・肥料 草花の栽培管理	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○		
6 ～ 1	20						

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
馬学	4	2年 生産科学科 馬事コース	馬学(JRA・JBBA)	JRA育成牧場管理指針

1 科目の目標

馬の飼育と馬産業の経営に関する課題を発見し、農業や馬産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

①馬の飼育に関する基礎的な知識を身に付け、馬の特性と飼育環境やその飼育に必要な環境や取り扱いの重要性を理解している。また、健全な馬の飼育における飼養管理の重要性とについて理解し基礎的・基本的な技術を身につけるようにする。

②馬の特性や飼育環境の保全など馬を生産し、育てる環境に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を養う。

③馬の飼育について興味・関心をもち、それぞれの課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度や創造性を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 5 12 ～ 3 5 ～ 12	50	馬の繁殖について ○分娩管理 ・分娩日の推測 ・分娩に向けた準備 ・分娩のステージ ・自然分娩 ・難産の対処方法 ○交配管理 ・繁殖解剖 ・繁殖生理 ・ライトコントロール ・交配に向けて ・交配適期 ・排卵促進処置 ○妊娠管理 ・多胎妊娠時の減胎処置 ・早期胚死滅 ・流産 ・妊娠馬の疾病 ・繁殖牝馬の栄養管理 ・血統	○	○	○	【知】:馬の繁殖について知るために繁殖管理の基礎的な知識を身につけ、馬に関する管理法に活用している。 【思】:馬の繁殖に関する分娩、交配、妊娠管理の方法や注意点を理解し、安全を重視した飼養管理法を基に合理的に判断し適切に表現している。 【態】:馬の繁殖について興味・関心を持ち、馬の繁殖管理について探求しようとしている。	実習レポート 単元テスト
4 ～ 11	50	子馬の成長 ○分娩直後の新生子の管理 ・出生直後の新生子の行動 ・新生子の管理 ○子馬の管理 ・子馬の躰 ・離乳 ・子馬の栄養管理 ・放牧管理	○	○	○	【知】:子馬の成長に関する管理方法についての知識を身につけ、躰、管理技術についてを理解している。 【思】:子馬の成長に関する管理方法についての課題解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	ワークシート 実習レポート 単元テスト 実技

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
						【態】:子馬の成長について興味・関心を持ち,子馬の接し方について探求しようとしている。	
8 ~ 11	10	護蹄 ○装蹄 ○管理保護 ・健康な蹄とは ・端蹄廻し ・蹄の手入れ ・休養馬の蹄の管理 ○構造生理 ・蹄の構造 ・蹄の生理 ・肢勢 ・肢の運動 ・肢軸 ・蹄形 ・歩様検査 ○蹄の病気 ○蹄鉄	○	○	○	【知】:馬の護蹄に関する構造生理を理解し,その知識を活用した蹄の管理法を模索しようとしている。 【思】:馬の護蹄に関する馬づくりについて,管理保護に必要なことほどのようなものかを考えることができる。 【関】:馬の護蹄について理解し,蹄に関して興味・関心を持ち,意欲的に探求しようとしている。	実習レポート 単元テスト
4 ~ 3	30	馬の飼養管理 ○厩舎・衛生管理 ○馬の生育調査 ○放牧地管理 ○牧草について ★プロジェクト学習 「子馬の育成」についてテーマを設定して研究を行い,成果を発表する。	○	○	○	【知】:馬の飼養管理に関する放牧地の管理方法の必要性を理解し,適正に行うための技術を習得している。 【思】:馬の飼養管理を行う目的を理解し,馬が安全で快適に過ごせる環境作りを積極的に取り組む姿勢が見られる。 【態】:馬の飼養管理について興味・関心を持ち,厩舎内外の環境を整える必要性を理解し,意欲的に取り組もうとしている。	実習レポート 発表

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
馬利用学	4	2年 生産科学科 馬事コース	馬術(JRA・JBBA)	馬学(JRA)

1 科目の目標

馬の利用に必要な知識と技術を習得させ、馬の特性や飼育環境を理解させるとともに、実践的な馬の利用法及び関連分野で応用する能力と態度を育てる。

①馬利用に関する基礎的な知識を身に付け、馬の特性と取り扱いの重要性を理解している。また、乗馬の基礎的・基本的な技術を身につけるようにする。

②馬利用に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を養う。

③馬の飼育について興味・関心をもち、それぞれの課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度や創造性を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 1	40	【厩舎と農場の環境】 ・厩舎管理 ・放牧地管理 ・牧草収穫	○	○	○	【知】厩舎や農場の管理に関する基本的な知識が身に付けている。 厩舎の管理について、基本的なスキルが身に付いている。	実習評価 実習記録野帳 単元テスト
						【思】厩舎管理の流れを理解し、自分1人で作業を終わらせることができる。 厩舎や農場の管理について、グループの中で自分の意見を表現することができる。	
						【態】厩舎や農場の環境について、興味や関心を持ち、よりよい飼育環境について探究している。 座学で得た知識をリンクさせ、厩舎や農場の在り方について考えることができる。	
6 ～ 10	20	【馬の利用】 ・馬の家畜化の歴史 ・馬具の種類 ・馬の品種と分類 ・乗用場飼育の実際 ・アニマルウェルフェアの実際	○	○	【知】現代の馬の利活用についての知識を身に付けている。 アニマルウェルフェアについての知識を身に付け、本校の馬の飼育に応用ができる。	授業プリント 実習評価 実習記録野帳 単元レポート	
					【主】現代の馬の利活用についての知識を応用し、地域に沿った馬の利活用について考えることができる。		

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 6	10	【馬体名称と体の構造】 ・馬体名称 ・下肢部の腱、靭帯	○	○		【知】 馬体の作りと働きに関する基本的な知識を身に付けている。 【思】 馬体の働きや役割に興味・関心を持ち、今後の生育環境に役立てようとしている。	授業プリント 単元テスト
7 ～ 11	30	【馬の馴致と適切な飼育方法の検討】 ・馬の性質と取り扱い ・ナチュラルホースマンシップ ・グラントワーク ・馴致(順化から鈍化へ) ★プロジェクト学習 「アニマルウェルフェアに適した馬の飼育について実践を含めた研究を行い、成果を発表する。 (昨年度はマスターソンメソッドマッサージ)	○	○	○	【知】 馬の馴致に関する基本的な技術を身に付けている。 【思】 馬の馴致やプロジェクト学習に関して、自ら考え、意見を研究に反映することができる。 【態】 プロジェクト学習に積極的に取り組むとともに、聴衆に学習成果をしっかりと伝えることができる。	実習評価 実習記録野帳 単元レポート 科目プロジェクト
6 ～ 3	40	【乗馬】 ・乗馬前後の馬の手入れ ・馬の3種の歩法 ・基本馬具 ・装鞍と脱鞍 ・ハミの着脱 ・馬具の手入れ ・乗馬と下馬 ・乗馬の基本姿勢 ・馬体の動き ・扶助 ・馬上体操	○	○	○	【知】 乗馬前後の手入れや馬装を一人で行うことができる。 【思】 自らの乗馬技術について思考を深め、技術向上に向けて考えることができる。 【態】 乗馬について興味・関心を持ち、よりよい乗馬方法について探究している。	授業プリント 実習評価 実習記録野帳 単元テスト

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
作物	2	2年 両学科 選択	作物 (実教出版)	なし

1 学習の到達目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	2	作物生産の役割と動向	○			【知】:安全な作物の生産から消費までの食料供給の仕組みを理解している。	ワークシート
4 ~ 1	30	作物の特性と栽培技術 豆類 豆類の栽培的特性 ダイズ	○	○		【思】:マメの栽培概要について基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 【知】:品種の特性や栽植密度に関する基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連づけて理解している。	ワークシート 定期考査
			○		○	【態】:マメの生育環境の要素について興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組む、課題解決を図ろうとしている。 【知】:播種作業と発芽や定植に関する知識を身に付け、その方法を理解している。	観察 定期考査
			○	○	○	【態】:生育ステージに対応した管理作業について興味・関心を持ち、課題の探究に意欲的に取り組もうとしている。 【思】:マメの正確なスケッチや的確な観察など科学的に農業生物を捉え適切に表現している。 【知】:生育ステージと管理作業に関する基礎的な知識を身に付け、その方法を理解している。	観察 定期考査

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 12	22	作物の特性と栽培技術 イモ類の栽培的特徴 サツマイモ、ジャガイモ	○	○		【思】: サツマイモ、ジャガイモの栽培概要について基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 【知】: 品種の特性や栽植密度に関する基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連づけて理解している。	ワークシート 定期考査
			○		○	【態】: サツマイモ、ジャガイモの生育環境の要素について興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組み、課題解決を図ろうとしている。 【知】: 栽培に適したほ場づくりについて基礎的な技術を身に付けている。	観察 定期考査
			○	○	○	【態】: 生育ステージに対応した管理作業について興味・関心を持ち、課題の探究に意欲的に取り組もうとしている。 【思】: サツマイモ、ジャガイモの正確なスケッチや的確な観察など科学的に農業生物を捉え適切に表現している。 【知】: 生育ステージと管理作業に関する基礎的な知識を身に付け、その方法を理解している。	観察 定期考査
2 ～ 3	16	作物生産と経営の実践 麦類・イネ・スイートコーン 栽培的特性 栽培管理 農業経営の特性 作物の流通と経営の改善 次年度作付品目の栽培計画・播種	○	○		【思】: 麦類・イネ・スイートコーンの栽培概要について基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 【知】: 品種の特性や栽植密度に関する基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連づけて理解している。	ワークシート 定期考査
			○		○	【態】: 生育環境の要素について興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組み、課題解決を図ろうとしている。 【知】: 播種作業と発芽に関する基礎的な知識を身に付け、その方法を理解している。	観察 定期考査
			○	○	○	【態】: 生育ステージに対応した管理作業について興味・関心を持ち、課題の探究に意欲的に取り組もうとしている。 【思】: 正確なスケッチや的確な観察など科学的に農業生物を捉え適切に表現している。 【知】: 生育ステージと管理作業に関する基礎的な知識を身に付け、その方法を理解している。	観察 定期考査

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
畜産	2	2年 食品科学科(選択) 2年 生産科学科(選択)	畜産(実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつなげるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能、【思】:思考・判断・表現、【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	4	序章 1 畜産を学ぶにあたって 2 畜産とプロジェクト学習 第1章 日本の畜産の特徴と役割 1 日本の畜産の特徴 2 日本における畜産物の需給の動向 3 畜産の役割と課題 4 科学の発展と畜産への活用	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	【知】:日本の畜産の特徴について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:日本の畜産の特徴に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:日本の畜産の特徴について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	レポート、発表活動 行動観察 レポート、単元テスト
5	4	第2章 動物の生理・生態と飼育環境 1 動物の生理・生態 2 飼育環境の調節 3 家畜排せつ物の処理と利用	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	【知】:動物の生理・生態と飼育環境について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:動物の生理・生態と飼育環境に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:動物の生理・生態と飼育環境について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 レポート、単元テスト
6	4	第3章 家畜と飼料 1 家畜の栄養と栄養素 2 飼料の特性と給与	○ 	 ○ ○	○ 	【知】:家畜と飼料について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:家畜と飼料に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:家畜と飼料について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 レポート、単元テスト
7 ~ 9	8	第4章 家畜の飼育 3 酪農	○ 	○ 	○ 	【知】:酪農に関する知識について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:酪農に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:酪農について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 レポート、単元テスト

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
10 ～ 11	10	第4章 家畜の飼育 4 肉牛の飼育	○	○	○	【知】:肉牛の飼育に関する知識について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:肉牛の飼育に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:肉牛の飼育について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	レポート、単元テスト
11	4	第5章 畜産と経営 1 畜産経営の基礎 2 畜産経営の改善	○	○	○	【知】:畜産経営の基礎に関する知識について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:畜産経営の改善に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:畜産と経営について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	レポート、単元テスト
12	2	第6章 畜産経営の実践 1 高校生による実践事例 2 農家による実践事例		○ ○		【思】:畜産経営の課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	レポート、単元テスト
1 ～ 3	6	第4章 家畜の飼育 1 養鶏 2 養豚 5 そのほかの家畜 6 野生動物への対応	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○	【知】家畜の飼育に関する知識について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:家畜の飼育に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 【態】:家畜の飼育について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	レポート、ワークシート
4 ～ 3	28	3 家畜の飼育と管理・評価 (1)飼養管理実習 ・給餌 ・放牧、収牧 ・除角 ・人工授精 ・妊娠の診断 ・飼料の調整	○		○	【知】家畜の飼養管理に関する技術について理解するとともに、既習事項との関連性について理解するよう取り組んでいる。 【態】家畜の特性と飼育技術について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 レポート、ワークシート

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
果樹	2	2年 両学科 選択	果樹 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、果実の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 8	11	オリエンテーション				【知】:果実生産の役割と動向について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】:果実生産の役割や動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【態】:果実生産の役割と動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート 定期考査
		第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向					
		1 果樹の種類と果実の利用	○				
		①果樹の種類と分類	○				
		②果実の構造	○				
		③果実の食品価値とその利用	○	○			
		④果実をとりまくフードシステム		○	○		
		2 果樹栽培の動向					
① 果実の生産と消費の現状	○						
② 果実の輸出と輸入	○						
③ 果樹栽培の将来		○	○				
④ 果樹栽培と自然環境		○	○				
7 ～ 10	12	第2章 果樹の生育と栽培環境				【知】:果実生産の特性と栽培技術について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 【思】:果実生産の特性と栽培技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。 【態】:果実生産の特性と栽培技術について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。	行動観察 ワークシート 定期考査
		1 果樹の生育と整理					
		① 果樹の生育とその一生	○				
		② 根・枝・葉の生長	○				
		③樹体の成長と炭水化物	○				
		④葉芽や花芽の分化と発達	○	○			
		⑤開花と結実	○		○		
		⑥果実の成熟	○	○			
2 果樹と環境							
①生育と環境要因	○	○	○				
②生育と水	○	○					
③生育と栄養	○	○					
④生育と土壌	○	○					

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4 ～ 12	12	第3章 果樹の栽培管理				<p>【知】: 果樹の栽培と管理・評価について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。</p> <p>【思】: 果樹の栽培と管理・評価に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。</p> <p>【態】: 果樹の栽培と管理・評価について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。</p>	行動観察 ワークシート 定期考査
		1 苗木の育成	○	○			
		2 開園と更新	○	○			
		3 土壌管理	○	○			
		4 栄養と施肥	○	○			
		5 水分管理	○	○			
		6 結実管理	○	○			
		7 結果調節	○	○			
		8 結果習性と整枝・せん定	○	○			
		9 気象災害の防止	○	○			
		10 病害虫の防止	○	○			
		11 植物生長調整剤の利用	○	○			
12 施設栽培と特殊栽培	○	○					
5 ～ 12	20	テーマ「施肥量の違いによる小果樹の収量調査」				<p>【知】: 果実生産と経営に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思】: 果実生産と経営に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。</p> <p>【態】: 果実生産と経営について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>	行動観察 ワークシート 定期考査
		生育調査、観察	○	○			
		栽培管理(播種, 定植, 防除, 葉かき, 採花, 調整, 箱詰め)	○				
		プロジェクトの記録・整理	○	○	○		
		プロジェクトのまとめ プロジェクトの発表		○	○		
10 ～ 3	15	第11章 果実の流通と経営改善				<p>【知】: 果実生産と経営の実践について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思】: 果実生産と経営の実践に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。</p> <p>【態】: 果実生産と経営の実践について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>	行動観察 ワークシート 定期考査
		1 果実の流通とその改善					
		① 果実の流通のしくみ					
		② 果実の流通経費		○			
		③ 果実の流通改善		○			
		2 果樹の経営とその改善					
		① 果樹経営の評価	○	○			
		② 果樹経営の改善	○	○	○		
		③ 果樹経営の設計		○	○		
④ 環境問題・安全性への配慮	○	○					

科目	単位数	学年・学科・類型	使用教科書	副教材
農業と情報	2	2年 食品科学科(選択) 2年 生産科学科(選択)	農業と情報 (実教出版)	なし

1 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用することができる。

- ①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を活用することができる。
- ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決することができる。
- ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

2 年間学習計画

評価の観点→【知】:知識・技能 【思】:思考・判断・表現 【態】:主体的に学習に取り組む態度

月	時数	単元名及び学習内容	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			知	思	態		
4	1	オリエンテーション					
	5	第3章コミュニケーションと情報デザイン 2 文書の作成と表現 ※表と切り取り線のある文書	○	○	○	【知】:文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成することができる。 【態】ソフトウェアを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
5	6	3 データの集計と可視化	○	○	○	【知】:表計算ソフトウェアを利用してデータの集計とグラフ化ができる。 【思】販売会アンケートの内容の企画と分析ができる。 【態】ソフトウェアを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
6	6	※販売会のアンケート調査・集計 ※販売会アンケートのクロス集計と分析 ※IF関数、VLOOKUP関数 ※AND関数、OR関数 ※LEFT関数、RIGHT関数、LEN関数 ※データベース関数 ※ポスター作成と発表					
6	2	7 情報発信	○	○	○	【知】ソフトウェアを利用して情報の発信を企画することができる。 【思】著作権、肖像権に配慮した情報の発信について考えることができる。 【態】ソフトウェアを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
7	2	※webページの作成					
7	2	第4章スマート農業への展望	○	○	○	【知】ソフトウェアを利用して必要な情報を収集することができる。	・行動観察 ・テスト
8	4	5 リモートセンシングとGIS				【思】空間情報を著作権、肖像権に配慮した情報の発信について考えることができる。 【態】ソフトウェアを主体的に活用することができる。	・提出物 ・実技試験
9	7	※CDSEの活用 ※QGISの活用					
10	8	3 プログラムの設計	○	○	○	【知】プログラムを用いたコード作成ができる。 【思】リモートセンシングデータを活用して農業生産の課題解決を図ることができる。 【態】ソフトウェアやプログラムを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
11	8	※フローチャート作成 ※Pythonによるプログラミング ※CDSEとPythonによる植生診断 ※プログラムコードによるドローンの制御 ※ポスター作成と発表					

11	2	4	データベースシステムとオープンデータ	○	○	○	【知】オープンデータの仕組みを理解し適切に利用できる。 【思】統計データを活用し、地域産業の実態を調査できるとともにリモートセンシングデータを活用して農業生産の課題解決を図ることができる。 【態】ソフトウェアやプログラムを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
12	6		※eSTATの活用					
1	4		※JSTATmapの活用					
2	2		※統計ダッシュボードの活用					
			※特徴量の算出					
			※回帰分析					
			※日高の農業実態の調査					
			※ポスター制作と発表					
3	5	6	人工知能	○	○	○	【知】生成AIの特徴を理解し適切にプロンプトを作成できる。 【思】AIを活用して農業生産の課題解決を図ることができる。 【態】ソフトウェアやプログラムを主体的に活用することができる。	・行動観察 ・テスト ・提出物 ・実技試験
			※プロンプトの作成					
			※生成AIを活用したコード作成					
			※機械学習と画像診断					